



託北だより「あすなろ」No.51

「和」～敬・愛・信～

令和7年4月18日（金）

熊本市立託麻北小学校

文責：小倉 秀俊



HPコード

☀ 『幸せになれる子』を育てたい

熊本市教育センターに、皇太后美智子さまの次のような言葉が掲げてあります。『幸せな子』を育てるのではなく、どんな境遇に置かれても『幸せになれる子』を育てたい。」

託麻北小学校の学校教育目標は、

「自らのよさに気づき、磨き、未来に向かって輝きを放つ子どもの育成」です。

これからの世の中は、地球温暖化や AI 等の出現により、数年先の予測も難しい時代だと言われています。その中で生き抜くためには、自分で考え、行動し、解決していく力が大切です。そのもとになるのが、「自らのよさ」です。先月の卒業式で、次のような話をしました。

「他人と比べて『ないもの』を嘆くよりも、『自分にあるもの』つまり『自分のよさ』を見つけて、前に進んでいくことが大切だと全盲の金メダリスト木村敬一選手は教えてくれている。」

木村選手は、全盲というハンディキャップを乗り越え、自分のよさを全力で生かし、次々と目標を達成しています。たとえ結果が出なくても、努力する過程に意義を感じて努力されています。木村選手のように「自分のよさ」に気づき、磨くことで、「幸せになれる子」になれると思います。それが、本校が目指す子どもの姿です。

また、目標を支える土台を、副題「一人一人が大切にされる『和』がいつばいの学校を通して」としております。校訓「和」は、「信・愛・敬」を基として、これまで託麻北小学校で大切にされてきた伝統です。

その昔、聖徳太子が制定した十七条の憲法の第一条に、「和を以て貴しとなす」とあります。太子は、若いころ、政敵を武力で制圧しました。しかし国を治めるにあたって、「好譲不争」（譲り合い、争わず）の精神が大切であることに気づき、和を重視した憲法を制定したそうです。

本校でも、家庭や地域との「和」を大切にし、その「和」の中で、子どもたちの健やかな育ちが実現できるように取り組んでまいります。ご家庭や地域の皆様におかれましては、「和」の一つとして、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。



校訓「和」の「信・愛・敬」